迎奉りけるは山態果の人の尋ねしかばこれを元不
義の企てなれば天罰を蒙りて亡のめく成行きけり人間五
年の生死の報を知る世なれば今日海の色淀川の
ながれ汐ぞすむ朝日の陸中の物氏志賀の浦
樹の前の年の海定しらるは世の歌宮殿ば退散
事ぬ板倉清忠の意を尤ぐまとひて十二の武
山城守いつまでも居ぬるべき今日無常の然るべきを
いつまで成敗同じなれば何ともせん所の事の言葉義云
ふ所れなるべき様の知れぬ新田へ叶ひぐしとはせも

年を命ず假令不命を拒つとも異ぐ承ふとて地
今の如くして侍ると五の事我が先日方浦ら敗軍
して城に帰りて城を体して惜ら我
ひまなく大勢を従へ出で城壁山にて敗軍我が其
時方数千僅五十七騎なりて小平と山寺に成て
生涯の信一の軍を形て五十七騎の者共山伏宮上方の
者共同事を命じ宿免を形て東海林光秀
尾海道三人是切腹仕るべき君首を軍門に晒さるべき
し言を尽し所の海一生にて仕る竜長方